

ふるさと教育 取組事例

学校名	奥出雲町立高尾小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	高尾川の魚調査(謎の魚を釣った るで!)	高尾川, 魚, 周辺住民
ねらい	小さな高尾川にも魚がいるようだ、どんな魚だろうという素朴な疑問をもとに、地域における高尾川の役割について調査をする。その主体的で多様な活動により、ふるさと高尾を強く心に残したい。		
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週高尾川の実地調査をする(魚釣り、水生生物調査)。 ・昔の高尾川の様子についてのアンケート調査をする(魚釣りなどの川遊び、魚種等) ・川の様子の変化と魚の減少(魚種、量)について、関係を調査する。 ・中間発表、まとめの発表の場において、調査結果や高尾川についての想いを発表する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひと;コミュニケーション能力の育成を図るためにアンケートや聞き取り調査(個別訪問)を実施した。 ・もの;興味関心・主体的な学びにつなげるために、高尾川に「謎の魚」が存在するという設定をし、何気なく見ている高尾川をもつごく興味深い高尾川にした。 ・こと;アンケートや聞き取り調査を通して、昔の子どもたちは高尾川で泳いだり魚を採ったりしていたことを教えてもらった。その情報をもとに、今と昔の違いについて考える学習に発展させた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を、年代ごとに整理し、魚種や数の変化を読み取ったり、高尾の子ども達と高尾川の関わり方を整理したりして、分かりやすい発表資料にまとめた。 ・自分が知ったことをみんなに伝えたいという思いを高め、劇化したり、スピーチや絵にしたりして、多様な表現方法を学んだ。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この小さな川で昔は水泳ができていたこと、魚種が豊富で年代を問わず魚釣りをしていたことなど、多くの発見があった。しかし、今は草が茂り、川が浅くなってしまった。その結果、昔のような遊び方ができなくなった。なぜそうなったのか、昔のような川に復活させられないかということから、自分にできること、みんなの力を借りたいことを整理することができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、どうしてという疑問を抱き、解決しようと自分なりに探究していく学習に取り組めた。主体的な取組により、あまりしたことのない魚釣りに関心が生まれ、図書館で魚釣りの本をむさぼるように読んだ。そして、防波堤釣りを楽しむまでになり、生活の範囲や趣味にも広がりが生まれた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習素材を教材化する教師の力量が求められる。素材の発見、児童への出会わせ方、継続した学習課題の持たせ方、発表意欲や発表の場の持たせ方などを工夫することで、させられる学習ではない、やった感のある学習にできると思う。その達成感が、ふるさとを強く心にとどめる力になると思う。 			



* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。
(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)